

第5回 菱野団地再生計画策定検討委員会

議事要旨

日時：平成30年11月6日（火）午後7時～

場所：原山公民館 2階 大ホール

開会

1. はじめに

2. お試しアクション（社会実験）「菱野団地わいわいフェスティバル」の報告（資料1）

●資料説明

- ・事務局からの説明

○質問・意見交換等

- ・来場者の多くは昔から住んでいる方という印象で、昔は賑わっていたのに最近寂しかったからよかった、という声がとてもたくさん聞こえてきて嬉しかった。
- ・住民バスは、普段、日曜日は運行しないが、コミュニティ交通運行協議会の協力により運行し、大変盛況だった。特に、中央広場付近に臨時バス停を設置できたことが良かった。
- ・参加した子育てする女性の視点から、住宅展示場にあるような子どもが遊べる空間や走っていい場所を作ることで、子育てされている方やお子さんも来やすいと思う。
- ・これからは、ワークショップメンバーだけでなく自治会や商店街なども含めて、一緒になって菱野団地を良くしていくべきだと思う。
- ・4つの班により、4つの目的を持って実施したが、これに対してよかった点や悪かった点、改善点などをふりかえる機会はあるか。また、その結果について検討委員会に報告があるか。
→ 12月2日（日）に第5回住民ワークショップ「カタリバ」を開催し、ふりかえりや今後の取組みについて語り合う予定。
- ・準備段階でグループ分けをした結果、グループによっては大変な思いをした。事前の準備段階も含め、3台の自治会が一丸となって取り組む仕組みを作らなければ難しいと思う。社会実験の結果を検証しながら、今後どうしていくのか、再生計画の中へ盛り込んでいく等次のステップを踏み出してほしい。

3. 住民意向調査の追加報告（資料2）

●資料説明

- ・事務局から説明

○質問・意見交換等

- ・子育て環境について、菱野団地内には保育園・幼稚園が複数あって満足度が高く、小さい子を育てるには良いところで非常に大きな強みだと感じる。
- ・治安に対する重要度は非常に高いが、菱野団地は統計的に見ても犯罪発生率は市内では少ないはずだ

が、歩いている人が少ない等、なんとなく怖いという印象、誤解されているのではないかと思う。

- ・「新たな住環境に求める項目」と「現在の団地の満足度」の値が一緒にならないと団地に来てもらいにくいと思う。「現在の団地の満足度」を上げていきたい。

4. 菱野団地再生方針、先行プロジェクト、中・長期計画の検討（資料3）

●資料説明

- ・事務局から説明

○質問・意見交換等

（県営住宅更新プロジェクト）

- ・原山台2丁目の建替えが来年度から始まり、若い人が入ってくる良いチャンスである。若い人が入ってこられるように、先を見て住宅を建ててほしい。
- ・“民間活力”は何を示しているのか。
 - 民間活力は、PFI等という民間の参入の手法について県で検討している。PFI等とは、運営を含めた形で参画するもの、建設して管理まで参入をするものなどがある。民間企業の力を入れて、経済的に、運営的に有利にすることを考えている。

（エリアマネジメント団体プロジェクト）

- ・外国人の相談窓口の設置について、団地内での外国人たちは、各国籍ごとのコミュニティがあり、日本人との交流がないという意味での孤立化があると思う。お互いの文化や生活の当たり前が当たり前じゃないことを知るきっかけや、必要な情報を日々やりとりするような仕組みがあれば、誤解も不要なトラブルも減ると思う。相談窓口を設置するとき、地域の病院が、市役所、保健センター、小学校等と連携が取れる窓口になれば良いと思う。
- ・それぞれのコミュニティをつなぐキーパーソンを見つけて育てることが大事だと思う。
- ・キーパーソンとコーディネーターを意識したい。語学も達者で、外国人の生活様式や考え方を知っている人に関わってもらえるように考えてほしい。
- ・検討委員会の取り組みで話し合ったことを住民にどのように伝えているか。
 - お試しアクション（社会実験）では、住民に「20の取組方針」や名城大学からの提案をその場で、学生やスタッフが説明した。情報を伝えることは難しいが、FACE TO FACEで伝えていくことが大切だと考えている。
- ・検討委員会の存在すら知らない方がいる。簡素なもので良いので、市と地元自治会で定期的に知らせる等周知することは大事だと思う。
- ・意識が高く、素晴らしい人材にどう活躍していただくか、今後の推進体制の構築が課題ではないかと思う。今の時点でざっくりとでも方向があれば教えてほしい。
 - 本検討委員会が引き継ぐ形で、自治会、学識者、プレイヤーとして菱野団地に関わっている方で構成される再生協議会（仮称）が進捗管理を行う想定である。エリアマネジメントはサービスの受け手と担い手の関係性が築けないと持続性は生まれない。具体的に何をすべきかわかったところで、どのような主体が参画したらいいか、エリアマネジメント団体や事業者を募りながら実施していくイメージをしている。
- ・サービスを提供する際に費用の負担が出てくると思うが、早い段階で事業に関わり、収益事業の運

営費用で稼いでいくということが重要だと思う。センター地区や、空き店舗にも関与してもらい、事業機会を見つけてもらうことが必要である。

- ・外国人の相談窓口の設置 1 つにしても、この地域に住んでいる外国人のキーパーソンが運営・相談を受ける仕組みができると良い。外国人に限らず、高齢者や子育て世帯、住民がコーディネーターをして運用していく。そこに市や専門家が必要なときにサポートする体制が理想だと考える。
- ・日本コミュニティと外国コミュニティをつなぐようなキーパーソンを発掘しなければならない、見つけたらお願いする必要がある。
- ・いろんな人が関わってプロジェクトを進めていく、PI（パブリック・インボルブメント）的な思考が必要だと思う。中心になって関わる人もいれば、情報だけを得ている人もいる、様々な階層があり、誰もが情報を得ていることが重要である。検討された計画内容を、住民の目に触れる機会を作り、エリアマネジメント団体が担っていくことが良いと思う。

(センター地区を活用した交流拠点づくり)

- ・「コンパクトな都市構造への転換」という表現は、菱野団地をどこかに集約するような誤解される表現である。センター機能の強化やアクセスの改善など、ストレートな表現が良いと思う。

(安全・安心に暮らせる環境づくり)

- ・「駐車場環境の改善」について、駐車場環境が良くなりすぎると自動車を増やす方向となることがあるため、自家用車に頼らなくても生活できるようなアクセシビリティを確保していく、あるいは公共交通の改善をしていくことも必要だと思う。

(若い世代に住みたいと選ばれる団地づくり等)

- ・若い方々に届けるため、ソーシャルメディアなどを利用し、情報発信をしていけば良いと思う。共働きでまちの活動に参加出来ない場合もあるので、情報機器など新しいものを使って、何らかの形で関わられるようにすると良いと思う。
- ・良い情報だけでなく、変更した点も見せていくことが大事だと思う。かわら版的なものを発信し続ける必要がある。
- ・お試しアクション（社会実験）の様子を発信しないか。
→ かわら版は菱野団地でこれまでに2回発行した。ICTを活用したPRが今年度取り組めないかを模索しているので、写真なども含めて発信できる仕組みを作りたい。
- ・自治会では毎月各戸に回覧板を回覧しているが、本計画についてどこまで載せるか悩んでいる実情がある。
→ かわら版など自治会を通したPRはお願いしたい。自治会等が自ら原稿を作成し、再生計画について発信することも取り組んでいただきたい。

5. その他

- 事務局から次回6回目の会議を来年1月ごろに開催することを説明
閉会

以上